

調査担当者こだわりの一品！ 女性をかたどった人形

人形は、人をかたどった木の板で、息を吹きかけたり体をなでたりして病や災いなどを移して水に流すものです。服装や髪形からみると男性をかたどっていることが多いですが、女性をかたどった人形は鳥取県では岩吉遺跡や青谷横木遺跡、大桒遺跡で見つかっています。

この人形は平安時代のもので、谷の斜面の裾に河原石や土器が敷かれた所で見つかりました。人形には墨で長い髪を下ろした女性が描かれていて、腰あたりには手で着物の裾をまくっているような表現があります。そして、股の部分には刃物で二重の楕円形の線刻があり、女性器を表現したものとされます。女性器を表現した人形は例がなく、服をまくった表現は宮崎県の新田原58号墳で見つかった女性の人物埴輪に例があります。

女性器には災いなどを除けるとする民俗信仰があります。また「日本書紀」には天孫降臨の時に道で何も話さないサルタヒコにアメノウズメが乳房や女性器をあらわにすることで、サルタヒコが道案内をする話がかかれていて、女性器が災いを払うという考えの表れとされます。

この人形は水に流すのではなく、石敷きの上で祭祀などの行為を行う前に場を清めるために使われたのかもしれませんが。



女性人形が出土したようす（裏返った状態で出土しました。）



人形の赤外線写真
(奈良文化財研究所撮影)

新春特別展示企画第2弾！ 調査担当者こだわりの一品！

Part II 会下・郡家遺跡の古代

会下・郡家遺跡は鳥取市の西部、鳥取市気高町にあります。遺跡は南北に長い「逢坂谷」と呼ばれる平地の北端あたりにあり、西側の丘陵を越えると古代山陰道や女子群像板絵などが見つかった青谷横木遺跡があります。

青谷横木遺跡の古代山陰道が造られた頃の会下・郡家遺跡では、大きな掘立柱建物や南北に延びる道路などが造られました。今回の展示では、会下・郡家遺跡で見つかった奈良時代から平安時代の遺構や遺物をご紹介します。

会下・郡家遺跡では、古代の遺構以外にも縄文時代以降の人々の生活の痕跡が見つかっています。「地下の弥生博物館」ともいわれる青谷上寺地遺跡が栄えた弥生時代の中頃から終わり頃（2200～1800年前）には、当時の人々が住んだ竪穴建物や食べ物などを蓄えた袋状土坑、お墓とともに、屋根を支える柱が建物の外にある大きな建物が造られており、この付近の中心的な集落があったことがわかっています。



会下・郡家遺跡で見つかった注目の遺物たち



漆器の蓋（当時の高級食器）



緑釉陶器（当時の高級食器）



墨書土器（「疋」は「岡」の異体字）



地鎮のために埋めた古代の銭貨



鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県鳥取市国府町宮下1260 (0857) 27-6711
maibuncenter@pref.tottori.lg.jp

南北に延びる道路



平安時代の道路を南からみたようす



道路側溝から遺物が出土したようす (3D 画像)

台地の西の縁には、平安時代に造られた幅2m前後の道路が見つかりました。青谷横木遺跡などで見つかった古代山陰道と比べて幅が狭く、おそらく逢坂谷の中を南北に延びる道と思われます。道路はもともとあった地面の上に基盤のロームを盛って強く叩き締めて造られており、くりかえし造り替えが行われていました。

道路の脇には側溝が掘られており、その一角で多くの土師器が見つかりました。何らかの祭祀に伴うものと思われる。

平安時代の大型建物群

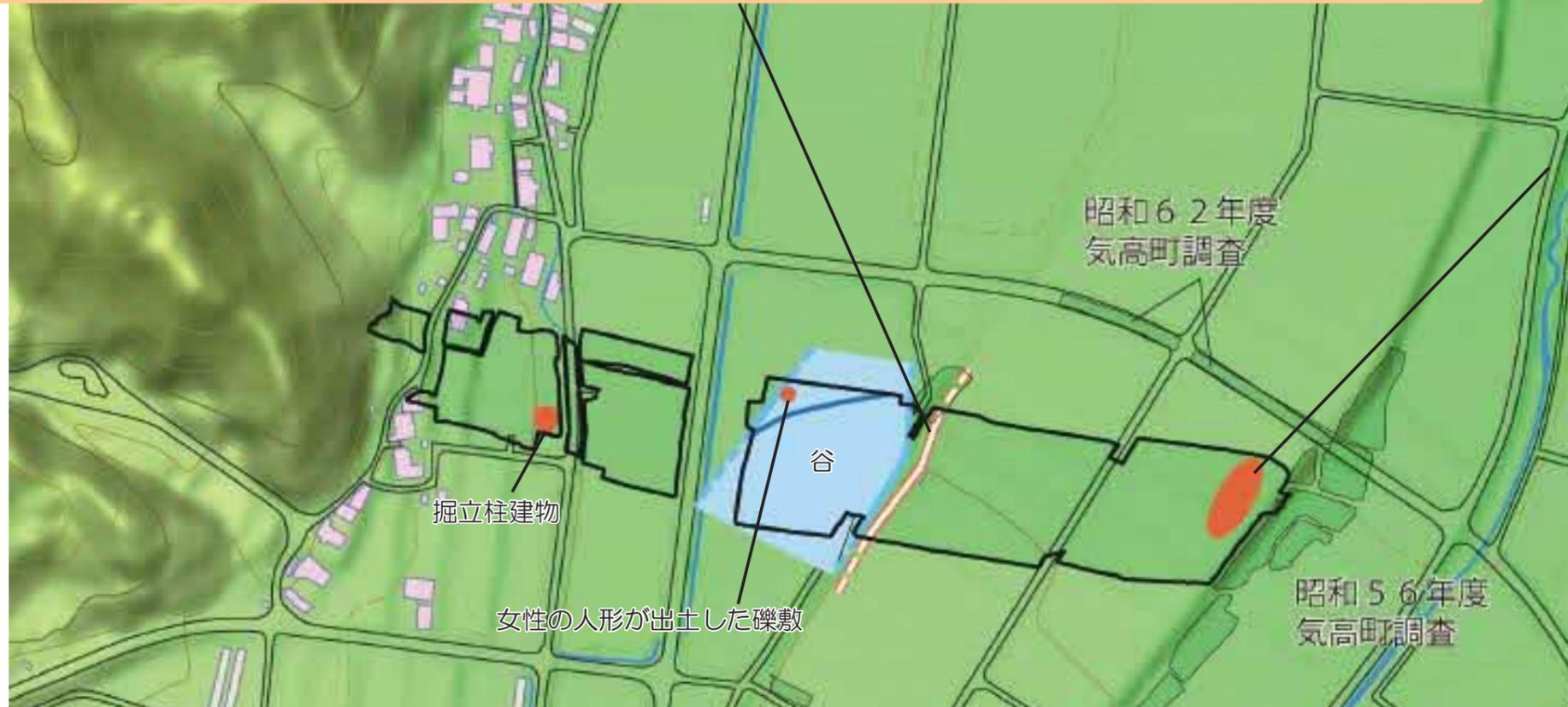


平安時代の建物群を東上空からみたところ

調査地の東側は南北に長い台地になっていて、その東端あたりで大きな掘立柱建物がたくさん見つかりました。

建物の柱を立てるための柱穴は直径0.8~1mあり、大きいもので1.6mほどある大きな建物が建てられていました。建物は同じ場所で繰り返し建て替えを行われていました。

遺跡のある逢坂谷の南側には奈良時代の気多郡を治める役所(郡衙)と推定される建物群が見つかった上原遺跡群があります。平安時代になると、税金の徴収などが国の役所(国衙)が直接行うようになることから全国で郡衙が衰退しており、上原遺跡群でも役所と思われる建物が見られなくなります。会下・郡家遺跡の大型建物は上原遺跡群が衰退する時期に建てられていて、国の役所が管理した建物だった可能性があります。



調査地西側のようす



西側の丘陵の裾から谷までの間の平地は、後世の開発によって生活の痕跡があまり残っていませんでしたが、丘陵に近いところで飛鳥~奈良時代の掘立柱建物が見つかりました。

谷の西側では、古代の高級食器だった漆器や施釉陶器、硯や墨で文字が書かれた土器が出土しました。これらの品物から、調査地の西側では当時の有力者や役人がくらししていた可能性があります。

また、谷の中では人形や馬形、斎串といった木製祭祀具が見つっています。今回の調査で祭祀を行った場所は見つかりませんでしたので、調査地の上流で行われたと思われます。

